

「雨中の奇跡」

和田 順一

8月2日(日)開催の「第16回奥武蔵ウルトラマラソン」77キロは、9時間44分36秒と過去10回で最高の記録となりました。

昨年が10時間57分19秒ですから、約1時間13分も早い！！

51歳で走り出した人であれば、10年後くらいに自己最高の記録を出すこともありえますが、私のように27歳から走り出して、43歳でフルマラソンの自己最高記録である3時間12分15秒を出し、以降は老化のために全く記録を更新できなかつた者が、51歳から本大会に参加して、60歳になって自己最高を出すなどということは、全く自分でも信じられないくらいです。

<雨と女性と努力?!>

この好記録の第1の理由は、終日雨で気温が低く、それだけ走りやすく頑張れた、ということでしょう。

朝7時のスタート時点は曇りでした。しかし、7時半頃には本格的な雨となりました。その後も雨は止むことなく終日降り続け、山の中では霧というかガスで前方20mくらいにいるランナーが見えないくらいでした。いつもは遠方に見える山々も真っ白な世界の中に沈んでいました。

午後2時頃の降り方が一番激しく、登りの山道は小川のように雨水が流れ、平坦な道路では大きな水たまりができています。もう、そうなるとシューズが水で濡れようが、かまっていられません。

体感温度は、25~26℃というところでしょうか。例年ですと、8月の第一日曜日は、いつも暑く、3キロ毎のエイド・ステーションで、頭から水をかけてもらい、氷の塊をもらっては首の回りや脚を冷やしたりしていたのですが、今年は、そうしたことは全く必要がありませんでした。

記録を大幅に更新できた第2の理由は、Uさんという知人の奥さんについて、競争意識を高められたことによるものです。私と同年輩、月の練習距離は100キロくらい、と聞くと、月に200キロくらい走っている私としては、負けるわけにいきません。小柄な女性なのですが、休むことなく一定のペースで走られます。引き離しては追いつかれ、またまた引き離すのですが、いつのまにか追いつかれる、ということを繰り返していました。結局、72キロくらいで下り坂なのに、もう疲労困憊で、彼女についていけなくなりました。言い訳をするなら、その少し前に、「10回完走の前祝いだ！」と調子に乗って、ビールを少しだけですが飲んだのが影響したような??

もちろん、たとえば7月には8時間走での55キロを含み合計230キロを走ったとか、前日は何もせずホテルのベッドで休養を充分とったとか、当日の1週間前からカーボローディングといって、月・火・水曜日はタンパク質を中心とし、後半は炭水化物が中心の食事として筋肉にグリコーゲンを貯えたり、と考えられる限りのことは実行していました。

<二重の喜び>

好タイムで完走できたことに加え、今回で10回目という私にとって節目の大会で、制限時間内に完走できたことも喜ばしいことでした。

過去に10回以上完走した68人の方のナンバーカードは、奥武蔵を象徴するグリーン色で、多くの一般選手は白色のナンバーカードです。ただ、過去に9回完走し、今回完走すれば10回になる私のようなものは、リーチがかかったとしてイエローで、良く目立ちます。

すれ違う人がゼッケンを見て、「10回目、オメデトウございます！」と声をかけてくれます。あるいは途中のエイド・ステーションで、色の違いの理由を知らない人が問いかけてくることもありました。説明すると、その人は「おー、そうですか！俺は、あと3回か！」と今後を楽しむ様子でした。

60キロ地点で時間を確認していると、その時の時間からして「10回完走确实ですね！」と声をかけてくれる人もいました。

あるいは65キロ地点でも「10回完走目前ですね！」と声をかけてくれた人がいたので、「御蔭さまで」と言いながら、その人のゼッケンを見ると、イエロー。「私もです」と嬉しそうな顔でした。

ゴール直前では、「次はゼッケン90番の和田さん。10回完走となります！」と大きく放送されます。そして、ゴール！主催者の方と握手し、記念のTシャツと重いメダルを頂きました。

ことほど、さように皆さんから関心を持って頂いた記念すべき10回目の嬉しい完走でもありました。

<七夕を思い出す日>

1万人以上もが参加するマラソン大会ですと、友人・知人に会うだけでも大変ですが、本大会には毎年参加する常連も多く、かつ昔に比べれば参加者が増えたとは言え、今回の場合でエントリーしたのが1,092人という人数ですから、知りあいにはすぐ会えます。そして、名前は知らないけれど顔には見覚えがある、という人が結構いて、「ああ、あの人も元気に今年も参加しているな〜」と懐かしくなります。

他のマラソン大会で出会っている人もおられますが、1年に1回だけ、8月の第1日曜日にだけ見かける人もいます。ウェディング・ドレスを着て走る女性、バニー・ガールの扮装をした女性、そういえば赤旗のTシャツを着たオジサンには今年会いませんでしたが、どうしたのだろうか？あるいは、高齢の御母さんがいつおかしくなるか分からないので、携帯を持っていつも走っていた松戸のあの人の顔も見えないな〜？と気になります。エイド・ステーションで応援して下さる人の中にも顔見知りがおられます。ビキニの女性は、雨の大会でも健在でした。

今年、驚いたのは、目も耳も不自由な人が参加していたこと。伴走者も大変だろうなと思いました。目が不自由なだけの人の伴走であれば、「右にカーブします」のように、口で説明すれば良いわけですが、耳も不自由な場合、さて、どう誘導されていたのでしょうか？

片腕が無い人も走っていました。慣れもあるでしょうが、左右のバランスを取るのが大変だろうな、と思います。

そうかと思うと、大会直前に怪我でもされたのでしょうか？片腕を白い布で吊ったまま走っている人もいました。無理しなくても良いのに・・・。

男性の最高齢は、79歳！さて、12時間の制限時間内に77キロの山道を完走されたのでしょうか？この方を含み、男性で70歳以上が16人もおられました！

女性の場合の最高齢は69歳。皆さん、頑張られますね。

こうして、私にとっての、そして1,092人のランナーと、数百人？の大会関係者にとっての、2009年夏の一大イベントが終わりました。

さて、来年8月の第1日曜日には何が起こるか？

その前に、10月11日の5000m泳に向けて今から頑張ります！あと2ヵ月しかない！！

皆さまも御元気で！